

令和4年度（2022年度）

長野県産業教育振興会 特別生徒研究助成 報告書

長野県上田千曲高等学校
生活福祉科 教諭 浅沼 智美

- 1 高等学校名 長野県上田千曲高等学校
- 2 学科・氏名 生活福祉科 土田 柚羽（つちだ ゆずは）
- 3 研究テーマ 地域で連携する保育について考える
～情報発信により安心した子育て環境を考える～

4 研究目的・概要

生活福祉科の課題研究の一分野に、将来長野県の幼児教育や母子支援、保育に関する社会福祉支援に携わり、未来を担う子供と保護者を支援する人材になりたいと学習を進めている児童分野がある。昨年度からの活動を引き継ぎ、上田市と小諸市の子育てマップの作製を、小諸商業高校と一緒に取り組みたいと考えている。子供が安心して遊ぶだけではなく、子育て中の保護者がくつろげる場の提案も取り入れていきたい。また、子供と保護者への相談援助や支援体制を見学し、サポートできる体制の情報発信ができるよう学び、地域の方々が活用しやすいようにチラシなどにまとめ配布できるようにしたい。

地域の保育園と交流体験を通し、子どもの発達について学び、かかわり方や発達に合わせた遊びや学習について学習したい。

子供と保護者のサポートに取り組んでいる活動を学び、子供を地域で育てていく環境の整備や連携について研究する。

5 研究過程

(1) 子どもとの関わりについて学ぶ

子どもと関わるなかで、名前を知ってもらいながらコミュニケーションをとるきっかけになるよう、保育園の子どもたちが知っているキャラクターを名札にして作成した。その名札を付けて、地域にある保育園で、園児との交流を通し子どもの発達を学ぶため、生徒自らが子どもの発達に合わせた遊びを考え、実践した。

2歳児クラスでの実施

発達に合わせたおもちゃを通しを考えた。

2歳児の指先の使い方や認識の特徴を考え、安全面などの具体的な内容を、事前に保育士の方に相談し教えてもらいながら考えた。



名札の制作

子どもたちが興味を持ちやすいようなキャラクターの名札を作った。
子どもとの交流体験では運動着に付けていき、子どもたちとのコミュニケーションのひとつになっていた。



(2) 母子支援について学ぶ

6か月から就園前の子どもと保護者が、リトミックを中心に活動している子育てサークルへ見学体験に行かせてもらった。そこで、先生方が子どもと保護者との関わりを考えた体を使ったリトミックの計画について教えてもらうことができた。また、保護者が子どもとどのように関わりながら子育てをしているのかも伺うことができた。



活動の様子

リトミックを教えてください先生方が、自宅にあるフェイスタオルやバスタオルでも子どもと楽しく遊べることを教わった。

(3) 学童保育について学ぶ

地域にある学童保育に見学体験へ行かせてもらった。学童保育での活動の流れや、支援の体制について学んだ。



担当者から日々の業務について教えてもらう

児童たちが小学校から帰ってきた後の支援の流れを教えてもらった。学年も様々な児童たちが、宿題をしたりおやつを食べることの大切さや、ひとりひとりの児童に合わせた支援の方法を担当者たちが話し合っていることを学んだ。

(4) 遊ボール上田の活動参加

松本市で開催されている「遊ボール」を、上田市でも広めていこう始まった活動へ参加した。保育園の園児を対象とした活動で、体を使った遊びをボールなどの道具を使って行う。遊ボール上田の立ち上げから活動に参加し、実際に保育園児を対象とした練習活動に参加した。



活動の様子

遊ボール上田の皆さんに、事前に上田千曲高校に来ていただき生徒と一緒に練習を行った。活動当日は、準備運動体操を園児たちと一緒に踊ったり、怪我をしないよう注意を払いながら活動をした。

(5) 学童保育の児童たちと燻製づくり交流体験

上田千曲高校の機械科が制作している燻製機「くんちゃん」を使って、燻製づくり体験を行った。日頃からお世話になっている保育園の学童保育利用児童の皆さんと上田千曲高校でおこなった。本校機械科が制作している「くんちゃん」は手軽に燻製が作れるので、作っている過程を一緒に見ながら作れた。また、今年は機械科の生徒も参加してくれ作り方や燻製ができる仕組みなどを児童たちに教えてくれた。燻製づくりは今年度で2回目となるが、児童や保護者の方も楽しんでくれているので、引き続き取り組んでいきたい。





活動の様子

上の写真2枚は、活動に参加してくれた児童に渡すプレゼントを作っている様子。折り紙で作ったメダルと、キャラクターを細長いしおりにし、ラミネート加工をしてわたした。下の写真2枚は当日の活動の様子。児童は事前に自分たちで、どんな食品を燻製にしたらおいしいのかを調べて持ってきた。チーズなどの定番の物の他、お菓子やパンなどを燻製にし、感想を高校生に伝えてくれ楽しい活動となった。本校機械科の生徒も、一緒に活動してくれ、児童に燻製作りの楽しさを伝えてくれた。

6. 研究成果

年度始めに計画した活動が新型コロナウイルス感染防止の観点などから、実施回数が少なくなったり計画の見直しや中止が相次いだ。しかし、子どもたちとの交流や体験学習を通して学びを深めたいという高校生たち思いを、地域の皆様が何とか実現しようとしてくださった。今後の保育分野を担っていく人材の育成にとっても熱心な方々が多く、今年度の活動がたくさん実現できたのは地域の皆様のおかげである。そのため、今年度活動を通して子どもたちと学習できた本校生徒のほとんどが幼児教育分野に進学した。今後さらに学習を深めて、子どもたちの育成に尽力する力をつけていきたいと話していた。

今年度の活動を、来年度以降さらに見直しと工夫を進めていきながら、生徒の学習に実りの多い体験ができるよう尽力していきたい。生活福祉科での日頃の学びを地域の皆様と協力することで還元していきたいながら、地域に開かれた学校になっていかななくてはならないと考える。